

続々、「国語力」アップ!

2022年度は全国の小中学校など
約600校、10万人超が取り組みました



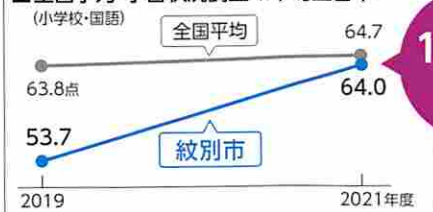
「全国学力・学習状況調査」の成績アップ!

北海道・紋別市



2020年10月に教材を使い始めた北海道紋別市では、翌年5月の全国学力テストで小学6年の国語の平均正答率が大きく伸びました。

■全国学力・学習状況調査の平均正答率



10ポイントUP!

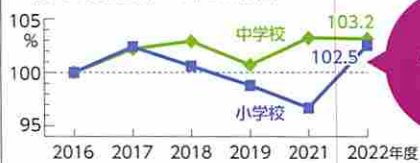
紋別市立紋別小学校では教材の正誤を1人ずつ記録し、誤答の傾向を分析しながら児童の課題を把握し、授業改善に結びつけています。

国語「読むこと」で平均正答率上がる

埼玉県・坂戸市

2021度から取り組んだ埼玉県坂戸市では、22年度の全国学力・学習状況調査で、小中とも国語の「読むこと」の平均正答率が上がりました。

■坂戸市における国語の伸び
全国学力・学習状況調査、2016年度の全国平均と坂戸市の差を基準(100%)とした変容



特に
小学校で
UP!



県学力・学習状況調査のCBT方式移行を見据え、学習用端末での活用も進めています(坂戸市立南小学校で)

教員の声

業者テストで「読むこと」のポイントが大きく伸びた。
(埼玉県・小学校)

読解力スキルを測る民間テストで、全ての項目で前年を上回るようになった。
(大阪市・中学校)

社会問題について自分なりの意見を持ち、発言できるようになった。
(三重県・小学校)

以前は時間内に解き終わらなかった生徒たちが、全国学力テストでは「時間が余った」と答え、無解答は延べ6問にまで減った。
(岩手県・中学校)



杉戸町立杉戸第三小学校(埼玉県)で

児童生徒の声

物事をいろいろな視点から見られるようになった。

ニュースについて家族や友達と話すようになった。

文章の構成を考えるようになった。まとめられるようになった。

人に伝える言い方がうまくなった。

自分のことや世の中のことを考えるようになった。



墨田区立両国中学校(東京都)で